館報

教育記念館

No.90

平成30年３月 発行

第48回 富山県造形教育作品展

第35回 特別支援学校 みんながんばってます 作品展

主な内容

◎教育時評　「正師を得ざれば学ばざるに如かず」
富山県中学校長会　会長　　牧田　康博 …… 2
◎記念館の教育資料収集・調査事業について …… 3
◎後期恒例展から …… 4
「みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」
「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部作品展」「富山県中学校美術展」
「アイディアロボットフェスタ」「版造形教育作品展　秀作回顧展」
◎わが校の歴史から …… 6
★魚津市立大町小学校
★魚津市立村木小学校
★魚津市立上野方小学校
★魚津市立本江小学校
◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 …… 8
平成30年度の展示計画　あとがき

発行所／公益財団法人　富山県ひとづくり財団　富山県教育記念館　〒930-0018 富山市千歳町１－５－１
TEL(076)444－2000　FAX(076)444－2001　E-mail:toyama@t-hito.or.jp　http://www.t-hito.or.jp
（教育記念館会議室ご利用の場合　☎(076)433－2770）
発行人／富山県教育記念館　館長　伏黒　昇　　印刷所／いおざき印刷株式会社

正師を得ざれば学ばざるに如かず

富山県中学校長会
会　長　牧田　康博

先日、アフリカなどで寄生虫が引き起こす熱帯感染症の治療に大きな効果を上げる特効薬を開発したことにより、平成27年にノーベル生理学・医学賞を受賞された北里大学特別栄誉教授大村智先生（以下「先生」）の講演を拝聴する機会がありました。

講演では、子供の頃の様子や工業高校の定時制で教員として勤務しながら大学院でも勉強されたこと、研究への取り組みと成果、授賞式の様子などについてお話しいただきました。先生の表情や姿勢、軽妙な語り口や話の内容から何とも言えない人間的な魅力が伝わってきて、あっという間に時間が過ぎました。その中で私にとって特に印象深かったことについて２点紹介します。

１　「よくやった、よくやった。」

先生は、山梨県の中農の家庭に５人兄弟の長男として生まれ、子供の頃は活発でけんかや農作業の手伝いに明け暮れたとのことでした。お母さんは小学校の先生として忙しかったことからおばあちゃん子として育ったそうです。「勉強しろと言われたことはありませんが、祖母から『自分のことより人のために役立つことを考えなさい。』と繰り返し聞かされました。今でも私の心に残っています。人生の岐路に立った時は、このことを基に判断するようにしてきました。」そして、「祖母はずいぶん前に亡くなりましたが、もし今回の受賞のことを知るようなことがあったら、『よくやった、よくやった。』と喜んでくれると思います。かつて何かあるとそう言って喜んでくれましたから。」と当時を振り返られました。

大人がきちんと子供に向き合い、人としての生き方・あり方や願いなどについて語り聞かせること、そして、支え認めること、こうしたことによって簡単に揺らぐことのない拠り所、強さともいうべきものが育ち、多様な人々と共働しながら困難を乗り越えていける人に成長するのではないかとの思いを強くしました。

２　「教師の資格は自分自身が絶えず進歩していることである。」

これは、子供の頃にふとのぞき見たお母さんの日記に書かれていた言葉だそうです。「高校の夜間部の教師を経て研究者となった私の支えになりました。そして、この言葉を胸に刻んで自分自身が成長し、それを見せることで高校や大学院、研究所等で生徒や研究者を指導してきました。」と述べられました。

今、高大接続改革や学習指導要領の改正が進められ、学校には授業改善が求められています。私たち教員にとって、それぞれこれまで培ってきた授業スタイルがあり、これを一朝一夕に変えることは簡単なことではありません。それでも、子供たちが予測困難な未来社会を立派に生き抜いていける力を身に付けることができるよう、努力を続けることが大事であり、そうした努力を惜しまない教員にこそ子供たちは教わりたいのではないかと思います。

「正師を得ざれば学ばざるに如かず」このことを強く感じさせられた、たいへん貴重な講演でした。このような機会を与えられたことに感謝しています。

記念館の教育資料収集・調査事業について

富山県教育記念館は博物館機能を備えており、各専門部会において資料収集や調査研究を行っております。現在までに、郷土の先賢者やとやまの教育の歴史及び文化に関する文献や資料の収集を行い、下記の紀要を刊行しました。紀要は、館内で閲覧ができます。

富山県教育記念館　研究成果一覧

年	書　　名	内　　容	担　　当
1981	立山を仰いで　故郷の先賢　第1集	政治・産業・学問・教育・芸術文化の各分野の先賢28名について紹介	立山を仰いで編集委員
1982	立山を仰いで　故郷の先賢　第2集	政治・学術文化・教育・芸術の各分野の先賢26名について紹介	立山を仰いで編集委員
1985	立山を仰いで　故郷の先賢　第3集	政治・産業・教育・芸術文化の各分野の先賢32名について紹介	立山を仰いで編集委員
1987	立山を仰いで　故郷の先賢　第4集	政治・産業・文化・教育・芸術文化の各分野の先賢36名について紹介	立山を仰いで編集委員
1998	富山県中学校教育50年	新制中学校創設50年を機に、県内86校の生い立ちや中学校教育の変遷等についてのまとめ	教育資料部会
2003	創立25周年記念 とやまの教育を築いた人たち	学生発布以来、富山の教育を支えた人物の業績や影響についてのまとめ	教育資料部会 郷土先賢部会
2004	とやま教育のすがた	「とやまの教育ルネッサンス構想からとやまの教育10箇条」を基準にした本県教育の特色についてのまとめ	県教委 特別部会
2004	富山県の女子教育100年のあゆみ	女子単独校の歩みを中心に、富山県女子教育の変遷の総合的なまとめ	教育資料部会
2005	資料集 とやま教育史にみる主なできごと	富山の教育史の中で、教育に大きく関わる節目の出来事を子供向けに易しくまとめた資料集	特別部会
2007	自然に育まれたとやまの教育	自然を切り口に、富山の教育の歴史と、県内で行われている自然を生かした特徴ある活動を紹介	特別部会
2008	富山県の学校給食90年の歩み	学校給食が学校教育に果たしてきた意義や役割について紹介し、これからの給食について見通す	健康・スポーツ部会
2009	富山県の定時制教育80年のあゆみ	全日制高校の定時制課程が１校を除きすべて廃止されたことを契機に、青年たちの能力開発と生きる力の教授を目指した定時制教育の足どりを記す	教育資料部会
2011	富山県小中学校体育140年の歩み	明治初期から今日までの学校体育の変遷をたどる	健康・スポーツ部会
2012	富山県小学校教育　140年の歩み　上巻	江戸期から昭和期（終戦まで）の小学校教育の足跡をたどる	教育資料部会
2013	富山県小学校教育　140年の歩み　下巻	昭和期（戦後）から平成期までの小学校教育を、教育課程を軸にたどる	教育資料部会
2015	富山県特別支援教育のあゆみ　上巻	障害種別に対応した専門的な知識や技能、経験を必要とする特別支援学校を中心として、特別支援教育の綿々として行われてきた教育実践の歴史を振り返る	教育資料部会
2016	富山県特別支援教育のあゆみ　下巻	小中学校の特別支援学級を中心として、特別支援教育の綿々として行われてきた教育実践の歴史を振り返る	教育資料部会
2017	富山県幼稚園教育　130年のあゆみ※	明治期から平成期までの幼稚園教育の変遷をたどる	教育資料部会

※「富山県幼稚園教育130年のあゆみ」は、３月末に刊行します。それに伴い４月18日（水）～５月27日（日）の期間、記念館にて特別展「富山県内の幼児教育（幼稚園・認定こども園）活動紹介展」を開催いたします。

後　期　恒

第35回 特別支援学校 みんながんばってます作品展

10月27日（金）～11月12日（日）

県内の特別支援学校に通う皆さんの作品約280点が一堂に会しました。日頃の学習を通して制作された個性あふれる作品が来場者を楽しませてくれました。

第48回 富山県

幼稚園・保育園・小学校・中学
の年代の素晴らしい作品約380点が

第33回 富山県教職員厚生会 退職厚生部富山支部会員作品展

10月13日（金）～10月22日（日）

教員の退職後の生きがいづくりのために毎年開催しています。今年は書画・写真・工芸・手芸など118点の力作が集まり、華やかな作品展となりました。

第13回 アイディ

中高生、高専生が製作したロボッ
ンジデーでは、参加者は工作家乙帳
ストレーションに夢中になりまし

恒　例　展

造形教育作品展

11月18日(土)～12月３日(日)

校・高等学校76校から、それぞれ
が集まりました。

第28回 富山県中学校美術展

1月26日(金)～2月10日(土)

県内80校の生徒による創造性あふれる平面・立体作品205点を展示しました。豊かな感性にあふれた秀作が集まりました。

アロボットフェスタ

12月９日(土)～１月14日(日)

ットを一同に展示しました。チャレ
播啓子さんの講演や、各校のデモン
た。

第11回 版造形教育作品展 秀作回顧展

２月21日(水)～３月25日(日)

平成５年から平成７年までの秀作版画120点を展示しています。様々な技法による情景豊かな作品に心が奪われました。

魚津市立大町小学校

ふるさととともに

本校は、明治６年魚津町奉行所御貸屋を校舎として創立され、校名を「魚津一番小学」とよび、翌７年には新川県庁跡へ移し明理小学校と改称しました。ほどなく児童数の増加により明治12年に魚津城址（現在地）に新校舎を建設し、以後、校舎は幾たびか建て替えられ、大町小学校の校名は昭和22年からよぶようになりました。古くから政治・経済・文化の中心として発展してきた歴史的に由緒ある地であり、教育においても常に先駆け的存在であったことから、校歌にも「明日の日本を擔ひて立たん」と歌われています。児童玄関前には初代校長、阿波加修造先生の大きな石碑があり、その教え「不言実行」の明理の心は、１万４千人あまりの卒業生に着実に受け継がれています。

本校には世界的名画43点（複製画）が飾られている「明理美術館」、魚津城に関するジオラマや資料が並ぶ「大町歴史館」と称する教室があります。地域の人たちの手で子供たちの学習や憩いの場にと設置されました。また、総合的な学習の時間にはふるさと教育の一環として、子どもたちが縦割り班で地域を巡り、体験や会話を通して地域のよさを学ぶ「縦割り班校区学習」が継続されています。子どもたちを「地域の宝」として見守る人の心は温かく、地域ぐるみで育んでいます。

閉校を前に「学校へ泊まろう」やＮＨＫ夏期巡回ラジオ体操等の事業を「ありがとう　144年」を合い言葉に、学校と家庭、地域が一体となって進めてきました。子どもたちが楽しみながら参画することで、自分を育んでくれているふるさとへの愛着と喜びを一層深め、将来、たくましく生きるための心の支えとなると信じています。

長い歴史に幕・統合　新たに「よつば小学校」に

魚津市立村木小学校

村木小学校を心のふるさととして

本校は、明治42年１月に魚津尋常小学校として創立され、村木尋常小学校、村木国民学校と校名を変えながら、昭和22年に村木小学校となり現在に至っています。実に１万人近くの卒業生があり、地域はもとより国内外で活躍する人材も多数輩出しています。

昭和31年の魚津大火の折には校舎が焼失し、新校舎ができるまで児童は市内の他の学校や施設で別々に学習をしなければならなかったという悲しい過去もありますが、昭和63年及び平成元年に新築された現校舎は、白亜の外観や、内部に工夫された空間を有するもので、児童や地域の誇りとなっています。

本校の教育目標は「心身ともに健康で、豊かな人間性と創造力をもち、ねばり強く実践する児童の育成」ですが、昭和45年にこの教育目標の副題として「やりぬこう　強く　正しく　手をとって」が設定され、たくましく実践力をもった児童の育成に継続して取り組んできました。

特色ある教育活動としては、平成29年度にユネスコ無形文化遺産に登録された「たてもん祭り」を始めとして、「蝶六踊り」「鴨川とサケ」「魚津の水産業」等の地域の行事や特色を教材化し、地域の方々の協力を得て行う学習を積極的に展開してきたことが挙げられます。また、地域を流れる鴨川の清掃や地域を中心として行われる祭礼後の清掃等の美化活動、高齢者や身近な人々との心の触れ合いを深める様々な福祉・ボランティア活動を通して、地域社会の一員としての所属感を高め、ふるさとを愛する心の育成に努めてきました。

平成30年３月末で閉校となりますが、心のふるさととしての村木小学校の伝統と誇りを大切にしながら、４月に開校するよつば小学校でも新たな歴史をつくっていってほしいと願っています。

魚津市立上野方小学校

「守真の精神」をつないで

本校は、明治６年８月に「大海寺野小学校」として創校し、明治８年の「守真小学校」を始めとして７度もの改称を重ねながら、144年の歴史と伝統を築いてきました。「守真」は、「味道守真」に由来しており、「いろいろな人との関わりや体験を通して、自分の道をみつけ精進する」という意味です。明治維新の激動の時代を生きる当時の地域の人たちの願いがこもった校名でした。現在、職員玄関の前に、魚津市三太郎博士の一人である本校出身の盛永俊太郎博士がしたためた大きな書が掲げられ、「守真の精神」を大切に受け継でいます。

本校の人との関わりを大切にした活動の一つに、縦割り班活動があります。この活動は、平成７年より続いており、現在は、週２回の野菜栽培活動や運動などの常時活動に加え、年１回魚津市の遊戯施設「ミラージュランド」へ約７㎞の徒歩遠足を行っています。学年の隔てなく共に遊び、互いを大切にする校風は、長く続いてきたこの活動を通して引き継がれてきたものです。

また、地域の方々と共に取り組んでいる活動として、せりこみ蝶六や石垣刀踊りがあります。中でも、石垣刀踊りは、一時途絶えていましたが、地域有志の熱い思いから復活し、本校児童が学習発表会などで上演するようになりました。地域の方々の熱心な指導を受け、繊細な篠笛と力強い和太鼓、刀を打ち振る勇ましい踊りを習得する中で、地域の伝統を受け継ぐ喜びやふるさとを大切に思う気持ち、地域の一員としての自覚を学んでいます。

本校の歴史は平成29年度末をもって閉じられます。４月からスタートするよつば小学校でも、「守真の精神」を引き継ぎ、人との関わりを大切にして、たくましく歩んでくれることを願っています。

長い歴史に幕・統合　新たに「よつば小学校」に

魚津市立本江小学校

地域とともに

本校は、下野方小学校と新金屋町及び大町の一部が合併して昭和30年９月１日に創立しました。児童数は699名、全13学級でのスタートでした。ただ、開校したものの施設や教育環境が十分ではなく、グラウンドの整地や池、校庭の樹木等の環境整備は保護者や地域の方々の献身的な努力によって行われました。市内で最初のプール建設にも幾多の課題や難問があり、多くの方々の大変な苦労があったと聞きます。また、校舎建て替えの時も地域ぐるみの建設運動が展開されました。

そして現在、子供たちは多くの方々の苦労の賜物である恵まれた教育環境の中で、学校や家庭のみならず地域の方々にも見守られ成長してきました。書初め教室や読み聞かせ、蝶六踊り指導、街路樹のリンゴ収穫、本校の４人に１人が参加している公民館のサークル活動、総勢80名の隊員からなる見守り隊等、学校内外の様々な活動を通して子供たちは地域と関わりながら育ってきました。これらは本江小学校の創立当時から流れる「子供たちのため」にという想いが、今でも地域に引き継がれているからではないでしょうか。そして、本校の教育の歴史を振り返るとき、忘れてならないことの１つに協同的主体学習があります。「教育技術」にも掲載され学研教育賞、県教育委員会賞、科学技術庁長官賞など数々の受賞に輝きました。地域、保護者、後援会、学校、教育関係諸機関の学校教育に対する情熱が本校の教育の基礎をつくり、よき校風を培ったのだと思わずにはいられません。本江小学校の歴史は単に学校の歴史だけではなく地域の方々の歴史でもありました。

本江小学校という１つの歴史は終わりますが、本校のよき伝統を引き継ぎ、子供たちが健やかに育ち、新しい歴史を力強く築いていってくれるものと信じています。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業　実践活動報告会

平成30年２月７日

立山町立高野小学校

地域の自然や人に積極的に目を向け、自ら課題を見付け、主体的に問題解決に取り組み、自己の生き方を考えようとする児童の育成

弥陀ヶ原湿原散策

富山市立大沢野小学校

神通川をたどる―神通川の今と昔―

サクラマスの生態を学ぶ

射水市立大島小学校

ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る子供の育成

ペタンク体験

高岡市立福岡小学校

「ふるさとを知り、ふるさとで学び、ふるさとに生きる」福岡っ子の育成

ジャンボカボチャの栽培

氷見市立上庄小学校

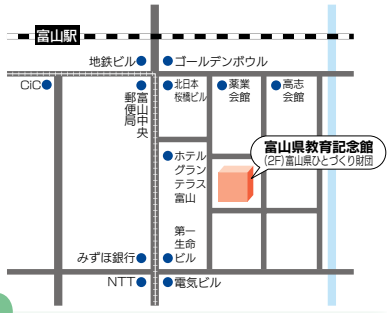
ふるさとに学び、ふるさとを愛する子供の育成

田植え活動

あ・と・が・き

冬季大会最高のメダル数となった平昌オリンピック。様々な思いや出来事を乗り越えてのメダル獲得には、感慨深いものがありました。競技や演技終了後の笑顔や立振舞いにもおおいに感動させられました。

さて、90号ができあがりました。ご多忙の中、館報の執筆に携わってくださった先生方、ありがとうございました。



平成30年度の展示計画

◆特別展「富山県内の幼児教育(幼稚園・認定こども園)活動紹介展」	４月18日(水)～５月27日(日)
◆第９回「児童・生徒による　ものづくり展」	６月６日(水)～７月８日(日)
◆第16回「さんすうワールド展」	７月18日(水)～８月26日(日)
◆第15回「子どもの目、自然不思議発見写真展」	９月５日(水)～10月７日(日)
◆第34回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」	10月12日(金)～10月21日(日)
◆第36回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」	10月26日(金)～11月11日(日)
◆第49回「富山県造形教育作品展」	11月17日(土)～12月２日(日)
◆第14回「アイディア　ロボットフェスタ」ロボット展	12月８日(土)～１月20日(日)
◆第29回「富山県中学校美術展」	１月25日(金)～２月10日(日)
◆第12回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」	２月20日(水)～３月24日(日)

富山駅近く

会議室を一般の方に**安価で**お貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。
詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。
http://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html

会議室をご利用ください！